

3. パネル討議

(特活) ヒマラヤ保全協会

田中 博

研修の実質的なオープニングでもあり、以下の観点をポイントとして進行に務めた。

- ・ 「国際協力における自立」とは何か、なぜ重要かについて問題意識を共有する。
- ・ 「自立」について、NGO・JICAそれぞれの、また共通の課題について考察する。
- ・ 結論を出すよりは、翌日の議論に向けての適切な問題提起を行う。

<なぜ、「自立」がテーマなのか？ 司会：田中より>

多くの NGO のパンフレットを見ると、現地の自立を活動目的に掲げている。JICA の協力も、自立・発展を支えることを目標としている。にもかかわらず NGO の場合、資金・人材の不足から、または善意である故に住民と依存関係が生じる場合も多く、自立の難しさを痛感している。一方 ODA による援助も、自立の準備が整う以前に協力期間が終了してしまい、自立が達成できない事例も耳にする。プロジェクトを効果的に実施して、自立を達成していくことが重要であると考えている旨、発言した。

<CCWA 基督教児童福祉会国際精神里親運動部部長 小林毅氏の発言要旨>

かつてカウンターパートに「あと何年支援が必要か」という問いをしたところ、「永遠に」という返事が来たことに衝撃を受けたという。自立に関して具体的な戦略が欠けていたことを痛感し、「自立」による支援集結を目指した枠組み作りを行ってこられたという。このご経験を人材育成や、計画策定の重要性など具体的な出来事を例にご紹介いただいた。多くの NGO にとって、参考になるお話だったと思う。

<JICA 国際協力専門員 横関祐見子氏の発言要旨>

最初にプロジェクトの定義付け（目的・資金・期間などの枠組みがある）を行い、氏が関わったジンバブエでのカトリック系 NGO、Unicef 教育プロジェクト、JICA 母子保健家族計画プロジェクトのご経験に照らし合わせてご発言いただき、「プロジェクトはいつ終わるのか、成功して終わる場合・そうでない場合」「開発協力と文化交流の違い」など、問題提起とともに論点の整理もしていただいた。

<参加型開発研究所代表 中田豊一氏のコメント>

NGO・ODA 事業双方に精通しておられる中田氏から、「自立に関しては、インパクトの持続性と活動の持続性を、区別して考えなければならない。なぜなら活動の持続には資源が必要」など、実践の参考になるコメントをいただいた。

その後質疑応答を行った。参加者からは「意図した計画とは異なる成果が出た場合、どう考えるべきか」「プロジェクトは必ず終わるべきか、そうでない場合もあるのではないか」など、短い時間にも関わらず翌日以降の議論に有益な問題提起・意見交換ができたと思う。

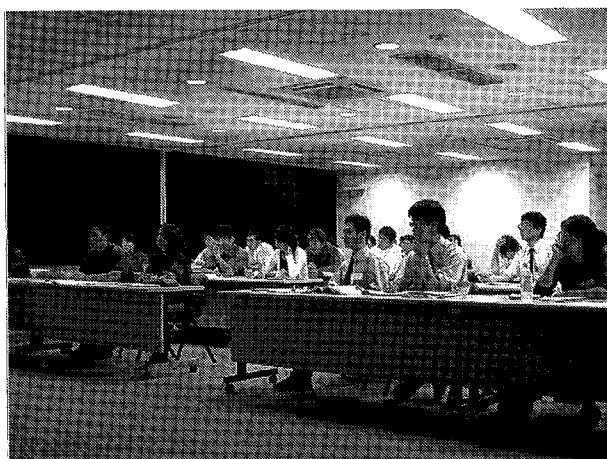
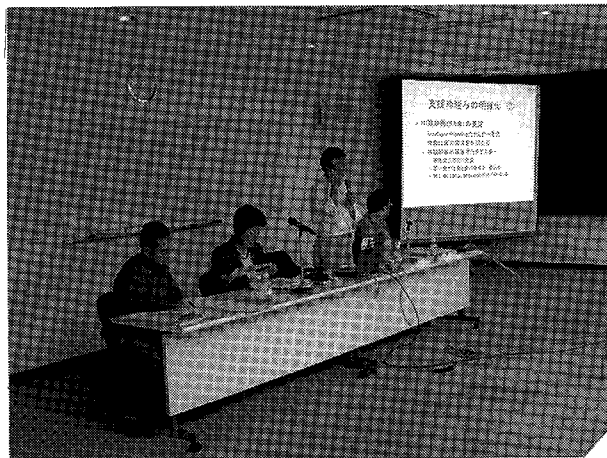
ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

パネリスト：社会福祉法人基督教児童福祉会 小林 毅

JICA 国際協力専門員 横関 祐見子

参加型開発研究所 中田 豊一

司会進行：特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会 田中 博



プロジェクトに終わりはあるのか？ — 自立発展性を考える —

社会福祉法人基督教児童福祉会
国際精神里親運動部
小林 毅

1

社会福祉法人基督教児童福祉会・ 国際精神里親運動部(CCWA)の歴史

- ・ 1952年(昭和27年)厚生省の認可により設立(米国からの支援受け入れ窓口)
- ・ 「愛のバトンタッチ」を行おうと国際精神里親運動部を1975年に創設



2

国際精神里親運動

- ・ 精神里親会員
(個人、グループ、団体)
月4,000円を寄付
フィリピンで生活する
貧困世帯の子ども、
家族、地域住民の生
活改善に協力



3

国際精神里親運動の目指すこと

- ・ 子どもたちの健全な成長
 - 教育
 - 栄養改善
 - 医療
- ・ 協同組合など住民主体の組織の形成を支援し、地域の自立
 - 成人教育
 - 収入向上プログラム

4

私たちの関係は永遠？

- ・ 1983年フィリピン駐在員としての経験
 - 当時、CCWAは、ハンセン病患者のコロニーで子どもの給食プログラムに対して資金協力
 - 給食プログラムを視察した折、事業責任者に「どの程度の期間支援が必要か」と尋ねた
 - 答えは、「永遠に！」
- ・ 支援期間を明確にする必要性を痛感
 - 期間内目標とそれを達成するための活動を明確にすることができる
 - モニターと評価が見えてくる

5

立派な箱もの完成

- ・ 突如支援先の事務所脇にバスケットボール用コートが完成
- ・ 資金源を聞くと、支援金の繰越金をプールして、事業計画に含まれていないバスケットボール用コートを完成させた
- ・ 会計監査の必要性を痛感

6

誰の「自立」？

- ・ 支援先からの問いかけ、CCWAは「誰の自立を目指しているか？」
 - 支援を受ける子どもたち？
 - 支援を受ける子どもたちの家庭？
 - 地域住民組織？
 - 支援先（事業実施団体）であるNGO？

7

「自立」の具体性

- ・ CCWAは、1975年以来、「自立」を目標に掲げていたが、その意味するところや、さらにそれを達成するための戦略を描いていなかった
- ・ 日本人スタッフの経験と力量が不足していた
- ・ 社会福祉⇔開発協力の整理が不足していた

8

支援の枠組みの明確化 ①

- ・ 協力覚え書の交換
 - 共通目標の確認
 - 役割分担の明確化
 - 関係終結の明確化

9

支援枠組みの明確化 ②

- ・ 中期計画（5カ年）の策定
 - Strategic Planningのセミナー提供
 - 中期計画の完成度が試金石
 - 中期計画の実施状況をモニター
 - ・ 実施第三年目に評価
 - ・ 第一期では覚え書の更新か、撤退か
 - ・ 第二期以降は、終結の選択肢が加わる

10

計画と実際のギャップを埋める

- ・ 計画と実施内容のギャップがモニターにより明らかになる
- ・ 支援先（事業実施団体）であるNGOに実施能力が充分備わっていない → キャパシティービルディング

11

「じりつ」を考える

- ・ 「自立」と書き、自らの社会的機能を最大限に発揮する
- ・ 「自律」と書き、自らコントロール（影響力を行使）する範囲を広げる＝社会的認知される「組織」を含む

12

プロジェクトは どのようにして終わるのか？

2003年度NGO-JICA相互研修
パネルディスカッション話題提供

JICA国際協力専門員 横関祐見子

1

プロジェクトの定義

1. 枠組みがある
2. 枠組みを理解する人々により運営される

枠組みとは？

1. 目的と活動が定まっている
2. 投入量と協力期間が定まっている（人材、資材、資金など）
3. 評価とモニタリングがプロジェクトサイクルに入っている

2

3つのプロジェクトが終わった時

事例

- ・ジンバブエカトリック教会NGO
- ・ジンバブエUnicefの教育協力
- ・エジプトJICA母子保健家族計画プロジェクト

3

ジンバブエ カトリック教会NGOの教育協力

- ・活動：独立直後のジンバブエで教師不足を補うため
ボランティア教師を農村中学校に送る
- ・NGOの運営
 - －経費はジンバブエ国からの教員給与をあてる
- ・国内の教員が充足してきた時
 - －派遣する科目を調整した
 - －全ての科目で教員が充足した時、NGOは発展的解消
- ・自立のための努力
 - －中学校教育の質の向上
 - －教員養成にはかかわらなかった。自立を傍らで見守った
- ・一度自立すればそのまま持続するのか？

4

ジンバブエ Unicef 教育プロジェクト

- ・プロジェクトの協力期間が終わった時に終了
- ・活動全体を見直し、ニーズの強い分野に協力を集中
 - －初等教育カリキュラム支援、保健教育、幼児教育
- ・関係省庁との対話、キャパシティ構築
 - －プロジェクト所属省庁が二転三転
- ・NGOとのパートナーシップ
 - －実施機関としての比較優位

5

エジプト JICA母子保健家族計画プロジェクト

- ・母子保健を通じて家族計画普及を目指した
 - －調査による実態の把握（クリニックに行きたくても行けない女性たち）
 - －村にクリニック（検診車）がやってくる
- ・持続発展性の担保
 - －検診車の運営のために国営工場と提携
 - －プロジェクト協力期間の延長して活動の持続発展性を担保
- ・プロジェクトの更なる延長と全国展開の可能性
 - －社会的な変化（イスラム過激派の台頭）

6

プロジェクトはいつ終わるのか？

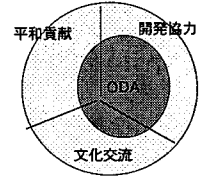
- ・ 成功して終わる
 - － プロジェクト目標の達成
 - － 上位目標達成、あるいは達成の見込み
- ・ 成功しないけれど終わる
 - － これ以上いくら協力しても目標達成できない
 - － 相手国あるいは相手機関の方針の変化（協力が望まれなくなる等）
 - － 相手国あるいは相手機関の実施体制の変化
 - － 政治的・社会的な異変による撤退

7

プロジェクトは必ず終わるべきか？

開発協力と文化交流の違い

- ・ 開発協力
 - － ドナーと受ける側の関係が明らか
 - － 成果を出す
 - － 終了することを目的とする
- ・ 文化交流（国際交流）
 - － 原則として対等な関係
 - － 成果を出す
 - － 長く続けることを目的とする



8

国際協力と政治的・外交的な要因

- ・ 協力があることにより生まれてしまう依存性という矛盾
- ・ 国際協力の中で、「開発」と「外交・政治」のせめぎあい
- ・ 異なったルールの適用
 - － 政治的にプライオリティのある国への協力
 - － 政治的に終わることのできないプロジェクト

9

自律発展性のために

- ・ 技術移転 (technology transfer)
 - － 技術や知識の一方的な流れ
- ・ 能力開発 (capacity development)
 - － 自立のための能力を作り出すプロセス

10

「どのように終わるか」と

「自立発展性」を

考えることは、

協力全体を見直すこと

(日本の国際協力の自画像)



11